

地方創生交付金を活用した事業の報告及び評価 (令和3年度まで実施事業)

No	① 交付対象事業の名称	② 事業概要	③ 総事業費 (内、交付金額)	④ 本事業における重要業績評価指標 (KPI)											⑤ 令和3年度終了時の実績値		⑥ 実績を踏まえた事業の今後について		⑦ 外部有識者からの評価・意見 (事業の方向性、KPI等)							
				指標				目標値	単位	目標年月	種別	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	事業効果	事業効果の理由	今後の方向性	今後の方向性の理由	事業評価	意見				
				指標①	指標②	指標③	指標④																			
1	坂井「わがごと・まるごと」地域の元気創出拠点整備事業 三国希望園 地方創生拠点整備交付金	旧三国西幼稚園を改修し、「再び」地域の活動拠点として解放することで、高齢者や子ども、子育て世代などの多世代の交流と障がいや介護、貧困、ひとり親など様々な困難を抱える住民の交流拠点として活用する。	123,358 (61,679) (H29)	指標①	三国地区の元気シニアの人数	5,384	人	R4.3	目標値	5,224	5,249	5,284	5,329	5,384	地方創生に効果があった	コロナ禍で地域活動が制限される中、これまで交流してきた地域とは、感染拡大防止を踏まえた非対面での活動が主となったが、継続して取り組んでいる。地域住民が集い交流するイベント等が開催できず、自主商品の対面販売の機会も減り販売額も伸び悩む状況の中、地元地域団体から高齢者の敬老を祝う慶祝記念品の注文を受けるなど、自主商品販売を通じた障がいの理解促進に繋げる取り組みを行っている。	事業の継続	本施設に地域住民が気軽に立ち寄り、集い相談しあえる場となるよう、コロナ禍ではあるが、これまでに進めてきた地域との交流を途絶えさせることなく、感染対策を講じながら、催し等を継続していくための創意工夫が必要がある。また、当該施設の利用者でもある障害者の就労意欲を高め、一般就労につなげる機会を、地域との交流の中で模索していくことも大事である。	事業の継続	事業の実績値や内容について、コロナ禍の環境中であることを鑑みると、効果的に利用されていると思われる。高齢化が進む中で、より多くの人が地域内交流を続け、障がいに対する理解促進を深められるよう、継続的に取り組んでいたが、また地域活動の中で、元気シニアの割合を高めていただきたい。						
				指標②	三国地区の一般就労した障がいの人数	累計28	人	R4.3	目標値	6	10	15	21	28							実績値	5,446	5,507	5,436	5,612	5,623
				指標③	三国希望園の自主商品販売額	3,016	千円	R4.3	目標値	1,316	1,616	2,016	2,516	3,116							実績値	846	1,149	1,038	1,140	899
				指標④	交流施設来館者数	67,800	人	R6.3	目標値	-	-	-	51,000	56,100							実績値	-	-	-	54,220	55,004
				指標⑤	賑わい広場イベント開催数	40	回	R6.3	目標値	-	-	-	12	18							実績値	-	-	-	5	15
				指標⑥	賑わい広場出店料	194	万円	R6.3	目標値	-	-	-	24	60							実績値	-	-	-	0	53
2	丸岡バスターミナル周辺整備事業 地方創生拠点整備交付金	丸岡バスターミナルについて、交流スペース及び賑わい広場を整備することにより人が滞留できる拠点をつくるとともに交流スペース内の店舗誘致、賑わい広場での産直販売などを実施することでまちの活性化を図る。またこの施設を丸岡城までのまち歩き拠点とすることで、丸岡城への導線周辺にある空き家・空き店舗の利活用を促し、観光客に対する魅力向上及び賑わい創出を図る。	413,640 (117,335) (R1)	指標①	交流施設来館者数	67,800	人	R6.3	目標値	-	-	-	51,000	56,100	地方創生に効果があった	新型コロナウイルス感染症の影響を受けつつも、指定管理者主催のイベントや他団体のイベントや施設利用が行われたことで、賑わいづくりや交流拠点としての役割は十分に果たしていると考え。	事業の継続	これまで同様、必要な感染対策を取りながら市民のニーズにあったイベントの開催や展示スペース等の施設を有効活用し交流拠点として定着するよう、人が集う仕掛けを行い、今以上の交流やまち歩きの拠点となるよう努めたい。	地方創生に相当程度効果があった	指定管理者主催による工夫されたイベント等もだんだん増えてきており、活気づいてきている。イベントがない時でも、年配者の人たちや、高校生が会話を楽しんでいる様子も見受けられている。大きいイベントだけでなく朝市の開催等、より有効活用を進めていただきたい。						
				指標②	施設利用者数(農産物直売所、交流ホール等)	170,035	人	R6.3	目標値	-	-	-	154,285	159,535							実績値	-	-	-	139,094	204,285
				指標③	イベント開催数(自主事業、市又はまちづくり協議会主催等)	6	回	R6.3	目標値	-	-	-	2	4							実績値	-	-	-	1	0
				指標④	年間売上額(農産物直売所、施設利用料等)	157,646	千円	R6.3	目標値	-	-	-	137,396	144,146							実績値	-	-	-	165,185	177,534
				指標⑤	施設利用者数(農産物直売所、交流ホール等)	170,035	人	R6.3	目標値	-	-	-	154,285	159,535							実績値	-	-	-	139,094	204,285
				指標⑥	イベント開催数(自主事業、市又はまちづくり協議会主催等)	6	回	R6.3	目標値	-	-	-	2	4							実績値	-	-	-	1	0
3	農産物の情報発信ターミナル「いねす」整備事業 地方創生拠点整備交付金	坂井地域交流センター「いねす」を改修することで、市全域の農産物を扱う商業活動の場を整えるとともに、ホール等を活用した市民の交流を促進し、周辺エリアの商業的価値を向上させることを目的とする。	385,632 (183,254) (R1)	指標①	年間売上額(農産物直売所、施設利用料等)	157,646	千円	R6.3	目標値	-	-	-	137,396	144,146	地方創生に非常に効果的であった	農産物直売所の年間売上額については、リニューアルを契機に陳列方法の変更等を行い売上額は伸びた。施設利用者は、コロナのワクチン接種会場となったこともあり大幅に伸びている。イベント開催数については、新型コロナウイルス感染症拡大防止策の一環で、中止とした。	事業の継続	農産物直売所の年間売上額については、今後も創意工夫を凝らすことで、より向上を目指す。施設利用者数、イベント開催数については、コロナウイルスワクチン接種会場としての利用終了時期が未定であるが、状況を見ながら、計画通り事業を推進することで賑わいを創出していきたい。	地方創生に非効果的であった	施設利用者数は、ワクチン接種された人が加算されていることもあり伸びているが、その間、施設の一部が使えなかったことを鑑みると、増加の傾向であり、またワクチン接種利用者も農産物販売所の利用も考えられ、有効的に活用されてきていると思われる。ワクチン接種会場としての利用終了後の活性化を期待する。						
				指標②	施設利用者数(農産物直売所、交流ホール等)	170,035	人	R6.3	目標値	-	-	-	154,285	159,535							実績値	-	-	-	139,094	204,285
				指標③	イベント開催数(自主事業、市又はまちづくり協議会主催等)	6	回	R6.3	目標値	-	-	-	2	4							実績値	-	-	-	1	0
				指標④	年間売上額(農産物直売所、施設利用料等)	157,646	千円	R6.3	目標値	-	-	-	137,396	144,146							実績値	-	-	-	165,185	177,534
				指標⑤	施設利用者数(農産物直売所、交流ホール等)	170,035	人	R6.3	目標値	-	-	-	154,285	159,535							実績値	-	-	-	139,094	204,285
				指標⑥	イベント開催数(自主事業、市又はまちづくり協議会主催等)	6	回	R6.3	目標値	-	-	-	2	4							実績値	-	-	-	1	0
4	水が湧き上がる山・里・町・海の歴史文化発信拠点整備事業	みくに龍翔館について、既存の常設展示を坂井市の歴史文化をより分かりやすく紹介するものに一新し、また特別展示室も整備し国指定文化財も展示可能とする。シビックプライドの醸成に努めるとともに、地域の歴史・文化遺産の情報発信や保存活用を行う人材育成を図る。	793,870 (173,563) (R3)	指標①	来館者数(館外活動参加者等を含む)	30,000	人	R8.3	目標値	-	-	-	-	-	事業の継続	坂井市全体の歴史や文化財の保存・活用の拠点となる博物館施設として十分に役割を果たしていくため、新たな展示の内容について検討を重ねながら、施設の全面改修工事を行った。今後は、それを活かして展示製作工事を進めるとともに、リニューアル後の運営のあり方についても検討を重ね、令和5年春のオープンをめざす。	事業の継続	当該施設の再生により、当該施設の入込み客数および収益の増加はもちろん、竹田地区の各施設との連携強化により、当該地区全体への訪問者、宿泊者、滞在時間の増加を目指す。また、地域住民の利用を上げ、地域交流の場として地域の人と交流イベント会場や、学生キャンプ等の研究発表の場として利活用を促進することで地区全体の賑わい創出について図っていく。								
				指標②	年間の学習利用校数	24	校	R8.3	目標値	-	-	-	-	-					実績値	-	-	-	-			
				指標③	館が主催・協同する内外での年間事業数(企画展・特別展、講演会、イベント、学習活動支援等)	15	回	R8.3	目標値	-	-	-	-	-					実績値	-	-	-	-			
				指標④	年間日帰り施設利用者数	19,000	人	R8.3	目標値	-	-	-	-	-					実績値	-	-	-	-			
				指標⑤	年間宿泊者数	7,000	人	R8.3	目標値	-	-	-	-	-					実績値	-	-	-	-			
				指標⑥	年間竹田地区来訪者数	243,000	人	R8.3	目標値	-	-	-	-	-					実績値	-	-	-	-			
5	里山で資源を生かした人を育む拠点整備事業	丸岡温泉たけくらべについて、客室等の改修や多目的ホールの共有スペース化により、宿泊施設としてだけでなく地域交流の場としての利用等を含め、竹田地区全体への訪問者、宿泊者、滞在時間を増やし賑わいを創出する。	350,440 (147,950) (R3)	指標①	年間日帰り施設利用者数	19,000	人	R8.3	目標値	-	-	-	-	-	事業の継続	当該施設の再生により、当該施設の入込み客数および収益の増加はもちろん、竹田地区の各施設との連携強化により、当該地区全体への訪問者、宿泊者、滞在時間の増加を目指す。また、地域住民の利用を上げ、地域交流の場として地域の人と交流イベント会場や、学生キャンプ等の研究発表の場として利活用を促進することで地区全体の賑わい創出について図っていく。	事業の継続	当該施設の再生により、当該施設の入込み客数および収益の増加はもちろん、竹田地区の各施設との連携強化により、当該地区全体への訪問者、宿泊者、滞在時間の増加を目指す。また、地域住民の利用を上げ、地域交流の場として地域の人と交流イベント会場や、学生キャンプ等の研究発表の場として利活用を促進することで地区全体の賑わい創出について図っていく。								
				指標②	年間宿泊者数	7,000	人	R8.3	目標値	-	-	-	-	-					実績値	-	-	-	-			
				指標③	年間竹田地区来訪者数	243,000	人	R8.3	目標値	-	-	-	-	-					実績値	-	-	-	-			
				指標④	年間日帰り施設利用者数	19,000	人	R8.3	目標値	-	-	-	-	-					実績値	-	-	-	-			
				指標⑤	年間宿泊者数	7,000	人	R8.3	目標値	-	-	-	-	-					実績値	-	-	-	-			
				指標⑥	年間竹田地区来訪者数	243,000	人	R8.3	目標値	-	-	-	-	-					実績値	-	-	-	-			

凡例：地方創生に非常に効果的であった 例：全てのKPIが目標値を達成するなど、大いに成果が得られたとみなせる場合 地方創生に相当程度効果があった 例：一部のKPIが目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合  
地方創生に効果があった 例：KPI達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合 地方創生に効果がなかった 例：KPIの実績値が開始前よりも悪化した、もしくは取組としても前進・改善したと言えないような場合